

長崎アピール

我々は、40年前、ヒロシマ・ナガサキで使用された核兵器によって、両市が約21万人の人々とともに完全に死滅し、その後両市は奇跡の復興をとげたが、通常兵器と決定的に異なる放射能障害が今なお多くのヒバクシャを苦しめていることを確認した。

現在の核兵器は、ヒロシマ・ナガサキで使用された核兵器の数千倍の威力を持つといわれている。人口と中枢的機能が集中している我々の都市にもし核攻撃が行われたら、ヒロシマ・ナガサキの数千倍のダメージを受けることになる。しかも、報復が報復を生み、やがて全世界を放射性物質が覆いつくし、気象までも変化し、人類滅亡に至ることは間違いない。

以上の認識を基調に、我々23か国81都市の市長は今世紀最大の危機である核戦争の脅威を取り除き、人類の英知と努力によって築き上げた我々の都市の発展と人々の生活を守り、これからの世代に明日への希望を持てる地球を遺産として残すために、長崎に集い、熱心に討議を行った。

その結果、この会議の総意に基づき、全世界の都市と市民に訴える。

1. 我々は、核兵器に対する認識をさらに深め、先ず核戦争の防止と核兵器の即時削減、そして最終的核兵器廃絶に向けて努力し、宇宙までも軍備競争が広がらないようにしなければならない。同時に、無制限に拡大する通常兵器の軍縮を訴えるとともに、軍備競争がもたらす経済負担の除去に務め、飢餓問題その他地球上の諸問題にもできるだけ関心を払わなければならない。

2. 我々は、そのために民族、国情、文化、政治、社会、経済条件の相違を超え、さらに各種の都市間交流を促進し、相互理解を深め、必要があれば共通の課題のもとに連帯しなければならない。同時に、国際機関が行う平和維持と貧困絶滅のための施策を支持し、協力しなければならない。

1985年8月9日

第1回世界平和連帯都市市長会議